

第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

S24310
S16007
S16009

③施設名等

名称：	児童養護施設 樹学園
施設長氏名：	中村 敬治
定員：	35名
所在地(都道府県)：	茨城県
所在地(市町村以下)：	東茨城郡茨城町大字小幡字北山2765番地4
T E L：	029-219-0315
U R L：	029-219-0316
【施設の概要】	
開設年月日	2009/4/1
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人 つつみ会
職員数 常勤職員：	22名
職員数 非常勤職員：	4名
専門職員の名称(ア)	児童指導員
上記専門職員の人数：	8名
専門職員の名称(イ)	保育士
上記専門職員の人数：	8名
専門職員の名称(ウ)	看護師
上記専門職員の人数：	0名
専門職員の名称(エ)	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(オ)	
上記専門職員の人数：	名
専門職員の名称(カ)	
上記専門職員の人数：	名
施設設備の概要(ア) 居室数：	31
施設設備の概要(イ) 設備等：	食堂、厨房、洗濯室、洗面所(2)、浴室、脱衣室、静養室
施設設備の概要(ウ)：	心理療法室、面会室、静養室、幼児室、談話室
施設設備の概要(エ)：	

④理念・基本方針

憲法、福祉児童法、児童憲章、児童の権利条約の精神を理念として、養護を要する児童に対して、心身ともに健やかに育成されるよう、最善の利益を図ると共に、児童個々の人格を尊重し、将来の自立に向けて、できる限りの支援を行う。

⑤施設の特徴的な取組

同一法人の特別養護老人ホームが敷地内にあり、交流の機会を持ちながら子どもと高齢者双方の福祉向上を目指しています。子どもたちは、季節の行事に招待を受けたり、法人的行事を合同で開催したりしながら交流を続けています。また、毎年春から取り組む一人一鉢の野菜栽培体験を通して、日常の食事に関心を持ち、収穫の喜びや達成感、生きる力を培っていけるように実践しています。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間(ア) 契約日(開始日)	2017/7/18
評価実施期間(イ) 評価結果確定日	1900/1/0
受審回数	1回
前回の受審時期	平成26年度

⑦総評

◇特に評価の高い点

子どもの養育支援に高い専門性を持つ施設長のリーダーシップの下、職員は子どもにかかる言葉ひとつの重みを十分理解し、出来るだけ否定語を使わないようにすることや、「何をしている」でなく「どうかしたのかな」といった言葉かけをし、子どもから良く話を聞くなど職員の統一した支援方法で子ども達との落ち着いた対応、関係性に効果を発揮している。また、良いところを認めてほめたり、物事をわかりやすく教えるなど、子どもとの良い関係が築けるように心がけている。

◇改善を求められる点

事業計画の策定については策定手順を定め、職員参画のもとで期中の取組みの参画状況を確認したり評価を実施し、成果や課題を明確にした上で中・長期計画を踏まえた事業計画となるよう検討を期待する。

施設の行事等は子どもや保護者に知らせているが、施設の基本理念、基本方針、処遇計画等、事業計画の必要な箇所は子どもや保護者に分かりやすい資料を作成し説明することを期待する。

定期的に第三者評価を受審するとともに自己評価を行っている、第三者評価の受診結果を職員に周知するとともに、それにもとづく課題を明確にし文書化し優先順位をつけ改善計画を作成することを期待する。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

評価結果を踏まえ、ご指摘いただいた点を真摯に受け止め、今後は具体的な改善内容を職員間で共有して取り組んでいきたいと思えます。事業計画の策定には、さまざまな職種の職員参画のもと、成果や課題を明確にして「子どもの最善の利益」に向けた内容となるよう努力いたします。また、事業計画の内容で必要と思われる部分においては、子どもや保護者への周知に向けてより良い方向へ整え、安心と信頼を深めて参りたいと思えます。

⑥第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果	
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b	1
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>	
【コメント】			
施設の基本理念、基本方針を明文化し事業計画に明示している。基本理念の下に(1)個人の尊重、(2)成長発達を支援、(3)自立支援を柱とした基本方針を定め、基本方針を具体的にした処遇計画を項目毎に定めている。職員会議で施設の基本理念、基本方針、処遇計画について職員の周知を図っている。パンフレットやホームページにも、基本理念等をわかりやすく記載し、子どもや保護者等への周知を図ることを期待する。			

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等適切に対応している。		第三者 評価結果	
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b	2
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	<input type="checkbox"/>	
【コメント】			
県の子どもの数の推移や養護施設入所児童の推移、養護相談件数等を把握・分析し、運営会議等で協議している。今年度より施設長以外に、副園長、主任も会議に参加するようになり、法人、あるいは社会福祉事業全体の把握、理解ができるようになった。児童養護施設における家庭的養護の推進といった国の政策に沿って、平成29年4月より6名の小規模グループケアの取組を開始している。			
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	<input type="checkbox"/>	
【コメント】			
少子化を背景とした入所児童の推移や、家庭的養護推進計画に基づき小規模ケアの取組み等、経営課題としてこれまで議論してきた経緯があり、平成29年4月より小規模グループケアの取組みが始まっている。年度毎に入所児童の状況、推移や養護相談件数の推移等の現状分析を行い、検討して運営会議に諮り、課題や問題点を明らかにしている。契約している会計士と相談し経営状況や決算についてアドバイスを受けている。			

3 事業計画の策定

		第三者 評価結果	
(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	4
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
「児童養護施設の小規模化及び家庭的養護の推進」に即した事業所独自の平成27年から15年間の中・長期計画を策定し職員にも周知している。児童養護小規模化に向けた中長期計画を作成し、平成29年4月には小規模グループケアが始まり、将来的には地域小規模施設、小規模グループホームの建設を計画している。また、「日曜の家」を進めながら、里親委託へも検討中であるが、里親探しは難航している。			
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		
【コメント】			
中・長期計画を踏まえた、単年度計画の事業報告書から、事業計画の実施状況の振り返りや、進捗状況、実施内容等が具体的に読み取る事が出来るよう、単年度事業計画の策定にあたっては、具体化した内容となることが望まれる。			
(2)	事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	c	6
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。		
【コメント】			
事業計画の作成については、職員参画のもとで評価を行い、その結果を活かして委員会やグループで次年度の事業計画を検討し、見直しをしているが、成果や課題を明確にするまでには至っていない。今後、成果や課題を明確にし、中長期計画を踏まえた事業計画となるよう期待する。			
②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c	7
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。		
【コメント】			
施設の行事等は子どもや保護者に知らせているが、施設の基本理念や基本方針、処遇計画、事業計画の必要な個所は子どもや保護者に分かりやすい資料を作成し説明することを期待する。			

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果	
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	8
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。		

【コメント】

定期的に第三者評価を受審するとともに、自己評価を行っている。グループ会議や自立支援委員会で子どもの養育・支援の質の向上に向けた取り組みが行われている。

② 9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	c	9
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。		
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。		
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。		
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。		
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。		

【コメント】

前回の第三者評価の受診結果を職員に周知するとともに、明確となった課題について改善の計画を立てるまでには至っていない。第三者評価の結果を分析し、結果やそれにもとづく課題を明確にし文書化し優先順位をつけ改善計画を作成することを期待する。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	10
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

職務分掌に施設長の職務について明確に表記するとともに、職員会議等で施設長の自らの役割と責任について常に表明し、日常的なリスクマネジメント及び危機対応についても積極的に取組み、また、子ども達一人ひとりとも積極的に関わりを持ち、子どもたちや職員と信頼関係を築き、リーダーシップを発揮している。

② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	11
<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

施設長は遵守する関連法令を正しく理解し研修等にも積極的に参加し遵守する法令等を理解している。全ての職員を権利擁護・虐待根絶の研修に参加させたり、人権意識を育むため「CAP児童養護プログラム」のワークショップを児童や直接処遇職員が受講できるようにしている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。			12
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
施設長は、子どもの養育支援についての高い専門性を有し、養育支援の向上に取り組み、子どもの権利を重視した養育・支援が行えるように研修等にも力を入れている。また、子ども一人ひとりの状況を把握し、課題があれば職員と話し合い対応している。また、幅広いネットワークを生かして、子どもの養育・支援を図っている。			

②		13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b	13
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="radio"/>		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="radio"/>		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>		
【コメント】				
法人管理の運営委員会等において、経営や業務改善に向けて話し合いを行なっている。職務分担や担当配置等を行う場合は、相性や適材適所を考え配置している。人員不足に対し募集を行ったり、年齢的に若い世代が多いので職員一人ひとりの働き方に気を配り、働く意欲の向上の為の環境作りに取り組んでいる。				

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	14
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
基幹的職員、家庭支援専門員、心理担当職員、個別対応職員等必要な人材を確保し、職員は各職種の専門性や役割を理解し、お互いに連携を取りながら子どもの養育・支援に取り組んでいる。専門職として心理職員を複数配置しており、心理的ケアの必要な子どもに対して遊戯療法やカウンセリング等の心理療法を実施している。			

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができている。	<input type="checkbox"/>

15

【コメント】

人事考課を行うまでには至っていないが、年に1度理事長が職員と就業状況や意向についての面接を実施している。施設長は日頃から職員と行動を共にする機会を多くする中で、職員の勤務の状況等で見極め必要に応じて職員と面接を実施して労務管理に努めている。ケース担当、職務分掌については、相性、適材適所を考慮し業務の実行性を高める人事配置を行っている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

16

【コメント】

年1回理事長と職員の面接を実施し、将来的な仕事の希望等を聞く機会を作っている。職員の有給休暇の取得状況や時間外労働時間を定期的に確認し職員の就業状況を把握している。シフト制ということもあり有給取得が難しいが、できるだけ職員の希望に沿うよう努力している。法人で永年勤続や食事会の補助など行うなど、できるだけ福利厚生についても職員の意向を聞いて実施してはいるが、更なる充実を期待する。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="checkbox"/>

17

【コメント】

施設長は、職員としての身だしなみや職員としてのあるまじき態度等を示した研修資料を用意し、新採職員等の研修を行っている。新採職員にはベテランの職員と一緒に勤務できるようにローテーションを組んで子どもの養育・支援についてアドバイスをを行い新採職員の育成に努めている。今後人事考課を取り入れる予定とのことであるが、期待する職員像を明確にし、職員一人ひとりのコミュニケーションを図りながら目標を設定し、それを達成するための努力を評価することで、質の向上につなげることを期待する。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

18

【コメント】

職員一人ひとりについての研修計画を作成するまでには至っていないが、職員研修の目標を定め、施設外研修、施設内研修を実施している。施設内研修では「CAP児童養護施設プログラム」や「発達障害についての確認と理解」といった施設内での喫緊の課題や職員の要望による研修を実施している。職員一人ひとりについての教育・研修の年間計画を策定し実施されることを期待する。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○

19

【コメント】

職員の資質の向上のため積極的に研修の機会を設け、外部研修、内部研修等職員には研修の機会を多く作り参加させている。内部研修でも、職員が自身の専門性を生かし講師を務める、研修を行っている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

20

【コメント】

県内の養成校を中心に実習の受け入れを行い、受け入れマニュアルに沿って、実習生とのオリエンテーションを実施し、養護施設の機能、役割等理解につながるような実習となるよう、幼児、児童の支援に入れるよう配慮している。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果	21
<p>① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。</p> <p><input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の意味や役割を明確にするように努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	21
<p>【コメント】</p> <p>施設の事業や財務に関する情報はホームページで公表している。第三者委員による苦情解決委員会を年2回開催して、意見箱に入っていた意見や苦情が寄せられている場合に検証を行っている。施設の概要、生活の様子ブログなどがわかりやすくのっている。第三者評価の結果も公表している。</p>		
<p>② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	22
<p>【コメント】</p> <p>組織図により責任者が明示され、職務分掌により、職務内容、分担等がわかりやすく示されており、それに基づいて経理・運営が行われている。会計士による指導に基づいて経営・運営が行われている。</p>		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果	23
<p>① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	23
<p>【コメント】</p> <p>事業計画の基本方針に地域行事に積極的に参加し、地域交流を図ることを明記している。職員が積極的にPTAの役員を引き受け、地域の保護者とも積極的に交流を図り、施設の子どもの理解に努めている。地域のあじさい祭りやいばらき祭りに参加したり、地域の子どもの会のクリスマス会等に参加し交流を図っている。園行事のつつみ祭りに地域の子どもの来賓を招待して交流を図っている。</p>		

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	<input type="checkbox"/>

24

【コメント】

ボランティアの受入れについては、ボランティア活動申込書兼ボランティア登録者台帳を記入してもらうことで、事前の審査を行うようにしてボランティアとしての適性を判断しながら受入れを実施している。ボランティアの活動同意書に記名してもらい、ボランティアとしての適切な行動と、個人情報の守秘をお願いしている。学習やダンス指導、散髪等7名と11団体のボランティアの活動を受け入れている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>

25

【コメント】

児童相談所や学校、医療機関、警察、消防署、公民館等、社会資源を明確にし連絡方法を明記して職員に周知している。関係機関との連携の一覧表を掲示している。管理者が学校を小まめに訪問したり、学校や幼稚園の先生の施設の見学を積極的に受け入れ、日常的に情報交換を行っている。児童相談所は夏休みに施設で子ども一人ひとりの処遇検討会議を実施している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	c
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	<input type="checkbox"/>

26

【コメント】

施設職員がPTAの役員を積極的に受け、地域の保護者と交流することで地域のニーズの把握に努めている。施設長が地域住民に対して、電話で子どもの養育の相談を受けたりしているが、施設の専門性や特性を生かし、地域住民の生活のための活動に施設の有する機能を地域に還元することを期待する。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○

【コメント】

民生委員や児童委員との定期的な会議や、第三者委員を地域の方が引き受けてくれていることなどを通じて、地域福祉のニーズに努めている。学校教職員の施設見学も受け入れている。今後さらに地域福祉のニーズを把握し、公益的な事業・活動を期待する。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

子どもを尊重した養育・支援の実施について基本理念・基本方針が細部にわたり明示されている。職員一人ひとりが子どもの気持ちを一番に考え支援を行っている。月1回のグループ会議で気になる子どもを中心に検討・相談し、職員間で共有を図っている。また、常に子どもの話をよく聞き、ほめるということも共通理解している。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	○

【コメント】

基本方針にある「個人の尊重」の項に、プライバシーと権利の尊重が掲げられ、マニュアルも整備されている。虐待防止についてもマニュアルがあり職員に周知するとともに、人権擁護のチェックリストを年2回実施している。日常生活において施設長が職員の言葉かけや指導について職員の気づきを大切に指導助言をしている。平成28年度は「CAP児童養護施設プログラム」施設職員ワークショップを、直接処遇職員が受講し権利擁護の理解を深めた。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別にいいねいな説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

30

【コメント】

「樹学園の生活」として子ども保護者向けに分かりやすい冊子が作成され、それを使って園の生活について説明している。園のホームページで、担当職員が定期的に園の行事や子どもたちの生活を紹介している。また、養育支援の内容が説明されたパンフレット等を準備している。入所前には安心して入所できるように、わかりやすい説明に配慮し、希望があれば見学にも対応している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

31

【コメント】

利用開始時に、「樹学園の生活」のしおりを使い、施設の日課や生活上の配慮点に関する情報を子どもや保護者に分かりやすく説明している。また、権利ノートを使って、子どもの人権や自己決定について説明している。意思決定が困難な子どもや保護者への対応については、今後の説明方法の検討が望まれる。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

32

【コメント】

一人ひとりのライフサイクルを見通しての養育・支援に努め、一貫性をもって継続的対応を行うように、関係機関との連携を図りながら行なっている。退所後も相談や、心のよりどころとして、受け入れはしっかりなされているが、相談方法や、担当者、内容などについて明文化し、説明することを期待する。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。	① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	第三者 評価結果	33	
		b		
		<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> 子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="checkbox"/>		

【コメント】

意見箱を設置している。小学生を低学年、高学年とに分けて毎月児童会を開催し、子どもの意見や要望を聞いている。年1回8月に子どもたちが「理事長と自由に話す会」を設け、子どもたちとの率直な意見交換会が持たれている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	第三者 評価結果	34	
		b		
		<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>		

【コメント】

苦情受付制度のマニュアルにより受付と責任者を配置し、第三者委員を設置した苦情解決制度を整備している。意見箱を設置するとともに、年2回苦情解決委員会を開催して、意見箱に入った意見等を中心に検討を行い、対応を記録に残している。

	② 35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	第三者 評価結果	35	
		b		
		<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="checkbox"/>		

【コメント】

担当制の下、心理士2名との連携によって一人ひとりを深く理解するように取り組んでいる。相談室が設置され、いつでも利用できる。年長の子には、一人になる時間帯に訪ねて行って相談に乗るなどの配慮をしている。また、意見を述べやすいような環境作りに気をつけ、職員によって相談をしていくという子もいるので、毎日一人ひとりをよく見て、聞いてもらいたいという気持ちを大事にし、丁寧に対応するようにしている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	36
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

意見箱を設置するほか、毎月の児童会で子どもからの意見や要望を聞いている。出た意見に対しては、必要に応じて職員会議で、内容を協議して対応している。子どもからの個別の悩みや相談については担当職員を中心に話を聞き、職員間で共有理解し、必要に応じて子どもの理解を得て心理職につないでいる。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	37
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

リスクマネジメント委員会を月1回開催し、ヒヤリハットや事故を検証して、対策を検討している。話し合った内容は職員会議で報告して職員で共有し、安心安全な支援を行っている。また非常用懐中電灯や防犯カメラの設置をするなど設備の面でも対応している。遊具の点検、中高生の通学路の危険箇所の点検を把握するほか、中学生の自転車の乗り方への注意喚起を行い、自転車点検は月1回行っている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b	38
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

感染症対策マニュアルに従って、手洗い、うがいの徹底が周知されている。また、実践を踏まえた勉強会、食品の衛生管理の徹底にも力を入れている。インフルエンザ等の対応に関して、子どもが罹患した場合は隔離された部屋があり、囑託医の対応、指示を受けることができる。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b	39
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○	
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○	
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○	
【コメント】			
<p>処遇計画の中に災害事故防止対策に留意した各種訓練を行い、防災と安全意識を高めるとしている。原発対応のハザードマップおよび災害時対応マニュアルを作成、定期的に訓練を行っている。消防署立ち合いの避難訓練や、特に人手の少ない時間帯（夜間）等の災害を想定しての訓練も行なわれている。担当者を決め、備蓄のリストを作成して、ランタンや発電機、毛布、簡易トイレ、ペーパー等を備蓄している、賞味期限のある食品等についてはその都度消費して、入れ替えを行っている。</p>			

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b	40
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとついて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○	
【コメント】			
<p>「樹学園の生活」のしおりの中で、「幼児の基本的生活習慣について」と「学齢児の日課における生活上の配慮点」として子どもの日課に即した配慮点を含めた、日課毎の養育・支援についての標準的な実施方法を文書化している。</p>			
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	41
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○	
【コメント】			
<p>問題が起きた時はグループ会議で検討している。問題が無いときでも、定期的に標準的な実施方法の検証を見直すことで、より充実した養育支援に期待する。</p>			

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

42

【コメント】

一人ひとりの子どもの状況を正確に把握し、ニーズを明確にして施設の手順に従い、子供の意見も丁寧に取り上げ、短期・中期にわたった計画が作られ、実施されている。今後はさらに様々な職種の職員から多面的な意見を聴取し、検討が行なわれる事を期待する。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

43

【コメント】

グループ会議や職員会議等で話し合いを持ち、個々に何か変化が生じた場合、評価の見直しを行っている。子どもとはその都度話し合いを持ち、自分の目標等の確認をしている。緊急の見直しが必要な場合は、随時見直しを行なっている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

44

【コメント】

子どもに関する養育・支援の実施状況記録は、施設が定めた統一様式により記録され、確認することができる。記録様式への記入の方法も統一されている。パソコン入力、ネットワークにより自由に見ることができ、職員会議やグループ会議での情報共有が的確にできる。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

パソコンのネットワークシステムを利用して、自立支援計画に基づく養育・支援の記録が適切に記録され職員で共有されている。文書管理責任者が設置され、子どもに関する情報等が外部に流出しないよう、子どもの入れない一定の場所に保管されており、職員は管理者の許可の下、いつでも閲覧、記録ができるようになっている。

□

内容評価基準（41項目）A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果	
①	A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。	<input type="checkbox"/>

A1

【コメント】

子どもの良い面を見つけほめることから始める。子どもにとって何が一番良い方法なのか、最善の利益について施設長が機会を見つけて、職員への周知、理解を図っている。基幹職員や主任はスーパービジョンの研修を受けており、スーパービジョンの環境が整っている。毎月の職員会議や、グループ会議において、養育支援の内容を振り返り、検討が行われている。

②	A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="checkbox"/>

A2

【コメント】

子どもが家族の状況を含め自分の生い立ちや家族のことを知ることは重要なことであり、子どもから知りたいといった申し出があった場合、その気持ちを尊重し年齢や発達段階に配慮し、子どもに伝える方法として、組織の対応方法についてマニュアルを作成し職員に周知しておくことを期待する。

(2) 権利についての説明

①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b	A3
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。		
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○	
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○	

【コメント】

職員は平成29年までに、権利擁護・虐待根絶の研修を受けることになっているが、今年中にあと2名で全員研修を終了する。またCAP児童養護施設プログラムの子どもワークショップを子ども達が受講し、直接処遇職員が施設職員ワークショップを受講するなど理解を深めている。

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	b	A4
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。	○	
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	○	

【コメント】

日々の生活の中で生きる力を身に付けさせ、縦割り外出の機会やキャンプ、東京社会科見学等の様々な生活体験を通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。喧嘩などのトラブルの時は、様子をみながら、出来るだけ見守り、自分たちの気づきを大切にしている。施設内で小学生男子6名の小規模グループでの支援をはじめたが、子ども自身にも変化がみられ、特に他人への思いやりの気持ちが芽生えた。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A5
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	○	

【コメント】

最低基準第9条の2(事業計画に記載)に権利の保障・懲戒に関わる権限の濫用禁止の項に細かく明示されている。職員へも周知されている。職員は倫理観を共有し、人権擁護のためのチェックリストを用いて、子ども一人ひとりの権利を守る取り組みをしている。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b	A6
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがとられている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

職員の目の届かない建物の死角となる場所は常に気を付けている。男子職員が女子児童の部屋等の見回り等する場合は、単独では行かず、部屋のドアを閉めないようにするなど、誤解をされないよう心掛けている。また園内研修や施設長が折りに触れ話をして職員へ注意喚起を促している。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b	A7
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

被措置児童等虐待の届出・通告の対応ができる体制を整備している。全職員が人権擁護、虐待防止に関する研修に参加している。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	b	A8
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

子どもや保護者の思想や信教の自由は保障している。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受け止め、不安の解消を図っている。	b	A9
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

入所の相談時から、子どもや保護者等への対応は、入園のしおりを基に基幹職員が手順に従って行なっている。入所する子供に対しても、寄り添い不安な気持ちを受け止め、理解しながら受け入れに配慮している。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	b	A10
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

月1回児童会議を開き子どもたちの意見を汲みあげ、問題や課題について子どもたちが主体的に検討・改善していく機会を確保し、生活改善に向けて取り組んでいる。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	b	A11
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

テレビは時間を決めて自由に見ることが出来るが、数台あるので、それぞれ好きな場所で好きな番組を見ている。ゲームは個人所有だが、時間を決めて遊び、ゲーム機は職員室で管理、保管している。大きな行事は職員が中心に計画するが、誕生会などは子ども達に任せて、子どもの自発的な行動を見守っている。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b	A12
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

小遣いは毎月年齢に合わせて支給されている。その他お正月や遠足や修学旅行等には学校等の規定に応じて支給している。現金は職員が預かり管理し、用途は子どもの自主性に任せている。遣ったときはこずかい帳に記帳し、必要に応じて職員が補助している。アルバイトは携帯電話使用料のほか高校卒業後就職時の運転免許取得のために許可している。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活が送れることができるよう復帰後の支援を行っている。	b	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。		

【コメント】

子どもにとって、家庭復帰を第一にと考え、出来るだけ子どもの思いを尊重しながら支援している。基幹職員を中心に、家庭復帰後安定した生活が送れるように支援している。また、児童相談所・学校・市町村の関係機関と連携して協議し、退所後の支援に当たっている。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○	
【コメント】 措置延長については子どもの状況やニーズに合わせて取り組んでいる。必要に応じて措置延長制度を活用している。			

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	c	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	○	
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。			
【コメント】 退所している子どもが電話を掛けてきたり施設を訪ねて来ており、その都度相談に乗って対応しているが、組織として、退所後の相談窓口を設置し、いつでも相談できるような体制を整えることを期待する。			

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果	
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b	A16
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。		
【コメント】 毎日子ども一人ひとりをよく見ることを大切にしながら、感情的になったときは少し間をおいて見守りながら、自分の気づきを大切にするなど、職員の中で共通認識のもと支援をしている。一人ひとり子どもは違うので時には心理職員も加わり支援を行っている。また職員の年齢や経験も様々なので特に言葉遣いには気をつけ、自分が感情的にならないように気をつけながら支援している。			

②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b	A17
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じた柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めるとき大人が存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

子どもとの信頼関係をベースに生活することで基本的欲求の充足がされている。職員は一人ひとりの子どもとしっかり向き合い、日頃から子どもの生活を良く観察し、待って、様子を見て、話を聞くようにしている。

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b	A18
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

子どもが、自分の気づきを大切にし、失敗しても自分の力で解決や納得をすることが出来るように、少し距離を置いて見守ることを職員間で共有している。時々心理職員も加わり働きかけている。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b	A19
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

年齢や発達段階に応じた遊具や学習教材、学習の場が提供されている。パソコン・携帯電話等を必要に応じ使用できる。年齢に合わせた遊具や遊びのスペースが十分確保されている。本の好きな子が多く、自分で購入したり、町の移動図書館を利用して年齢にあった本や絵本を借りて提供している。子ども達が運動出来る専用のグラウンドが整備されているとともに、定期的に体育館を借用しており雨天時等に活用している。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b	A20
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

職員が普段から振る舞いや態度で模範を示し、経験を踏まえて習得できるようにいろいろなプログラムを組み、守るべきルールのあることを教え、責任ある行動がとれるよう配慮し支援している。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b	A21
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気で、常に清潔が保たれている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

朝は登校の関係で時間差はあるが、その他は基本的にみんなで食事ができるように決められている。職員も一緒に楽しく食事ができるようにしている。また縦割りで行くなど機会も設けている。食べた後の食器は自分で片付け、テーブルを拭く。配膳など子ども達で出来ることの手伝いもさせるようにしている。子どもの誕生日にはその子の好きなメニュー3点を献立に取り入れ、提供している。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	b	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	<input type="radio"/>		

【コメント】

年2回嗜好調査を行い、子ども達の希望するメニュー等を調査して、メニューに取り入れたり、季節感のあるものを取り入れている。食物アレルギーのある子どもに対応をした除去食を提供しているとともに、体調不良の子にも個別対応している。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつ の 摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>

A23

【コメント】

発達段階に応じた食習慣が身につくように、偏食の指導を適切に行い、量の調節を図りながら、楽しい食事時間が持てるように支援している。一人一鉢野菜を作り、自分の好きな方法で調理をしてもらい食したり、職員手作りの日めくり献立表で食への関心を高めたりと食育の推進もしているが、食は「心の栄養」の観点から、食育指導の面に今後力を入れることを期待する。小規模グループケアについては、より家庭的な雰囲気作りの為に、食器等の工夫をすることを期待する。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあつたものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

A24

【コメント】

低年齢の子ども達の衣類は、好みを聞いて購入し、大きい子ども達は店が近くに無いので連れて行き、好きなものを購入する。好みを優先するが、あまり華美にならないように気をつけている。衣類の管理は自分で行う。洗濯をしたり、洗濯物をたたむ、などは年齢に応じて支援している。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b	A25
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいうように配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

共有スペース等職員の管理担当場所が決められており、子どもたちと共に整理整頓をして、みんなが気持ちよく生活できるように配慮されている。清掃は職員と子どもと一緒にいき、平日は主に職員が、土日は清掃日として子どもたちが行っている。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b	A26
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

個室が確保され、子どもは安心安全を感じる居場所が確保されている。幼児室は日当たりも良く職員室からも目の届く所に位置している。幼児に関しては、保育士と一緒に添い寝したりして生活することで、安心安全の確保がなされている。施設の一部分を利用して、小学生男子6人の小規模グループでの支援養育を実施し、よい成果を上げている。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b	A27
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身につくよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

発達に応じ、社会に出ても恥ずかしくないよう、身体の清潔や健康等の自己管理ができるように指導している。また交通安全においても同様に年齢発達に合わせた指導を通園、通学、外出等の機会を使って指導している。幼児については、「幼児の基本的接し方のマニュアル」と「業務内容の流れのマニュアル」が有り養育が時系列でわかるようになっている。特に幼児については、職員を固定ではなくローテーションで充てているので、子どもに対して共通理解をしてから、保育支援を行っている。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b	A28
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

薬を服用している子供もいるので、囑託医との連携を密にしている。夜間の緊急時には直接携帯電話に連絡が取れるようになっている。また同系列の隣接する特別養護老人ホームに来た時は必ず立ち寄ってくれるなど、連携が取れている。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b	A29
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

毎月性教育委員会が開催され、子どもが生きる力を身につける中で相手を思いやる心を育てていくことを心がけ、子どもの理解度に応じた、性についての正しい知識を得られる機会を作っている。職員の研修も担当職員を中心に行われている。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	b	A30
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

小遣いの中から好みのシャンプーや日用品の購入を認めている。洗濯物を入れる各個人のカゴを使用し、自分の部屋に持って行きタンスに片付けるのを習慣にしている等、自分のものは自分で管理するように指導している。子どもの名前はタグなど、見えないような場所に書いている。

②	A31 成長の記録(アルバム等)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b	A31
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録(アルバム等)を整理している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録(アルバム等)が手渡されている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

子ども一人ひとりにアルバムを作り、職員のコメントが入れている。子どもの行事、誕生会等節目ごとに写真を撮り、子どもが担当者と一緒にアルバム作成に取り組んでいる。アルバムは職員室で管理し、子どもの申し出に応じていつでも見られるようにしている。退園の時に渡している。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b	A32
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

問題を抱えていない子どもはいないといった前提で、子どもの行動上の問題に対して頭ごなしに接するのではなく、落ち着かせ良く話を聞くようにしている。子ども一人ひとりの行動をしっかりと見て職員間で共有し、日々の生活の中で個々がしっかり受け入れられ、安定した生活が送れるよう共通理解を深めている。感情のコントロールができない子や知的障害、発達障害の診断受けている子どももいるため、トラブルを未然に防ぐための部屋割りや、グループ編成等に配慮している。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b	A33
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっていく。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

小規模グループケアを始めるにおいて、小学生男子の中で外泊が出来ない子、障害のある子6人のグループで支援を開始した。その結果、子どもたちの中に連帯感が生まれ、面倒を見たりするようになった。又動線がいいので子どもの行動が把握出来るなど良い結果も見えてきた。職員間のコミュニケーションの大切さを意識し、子どもとの信頼関係が築けるようにしている。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性 がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	b	A34
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にな らないようにしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされて いる。	<input type="radio"/>	

【コメント】

学校、児童相談所、警察とも連携を取りながら、子どもの最善の利益を考えて保護者からの強引な引取りに職員が
対応出来るようにしている。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行ってい る。	b	A35
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援 プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中 で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが 行われている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を 行っている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

心理的ケアを必要とする子どもについて、心理ケアのプログラムを取り入れた自立支援計画を策定している。心理
士2名を配置し、心理室を使って遊戯療法やカウンセリング等の心理療法を使って心理相談を実施している。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行ってい る。	b	A36
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学 習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個 別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家 庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等 への通学を支援している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

学習室が整備され、学校から帰った後には子ども達の学習の時間を確保している。学習支援のボランティアを活用
したり、特別支援学級に通う子どもについては個別に対応するなど、丁寧な支援に努めている。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	○	

【コメント】

進路については在学時より子どもと話し合いを持ち、児童相談所や学校と連携をとりながら、保護者とも話し合いを持ち子どもの自己決定を最大限に尊重して決定できるように支援している。進みたい高校や就職に関しては、職員と十分話し合い、相談しながら進路を決めている。子どもの希望が実現できるように、職員も情報収集や学校との相談、職場への挨拶などを積極的に行っている。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b	A38
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○	

【コメント】

高校入学後に自立に向けた社会経験の拡大としてアルバイトを認めている。アルバイト等について規則を定め、高校生から積極的に奨励している。高校生になると携帯電話の使用が始まり、また就職のためには運転免許証が必要になってくるので、そのためにも社会経験を積みながら出来るだけ自分の力で自立できるように支援している。又隣りにある同法人の特別養護老人ホームでも就業体験が出来る。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b	A39
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○	

【コメント】

アルバイトについては、高校入学後に規則を定め、自立に向けた社会経験の拡大として、積極的に奨励している。高校生になると携帯電話の使用が始まるとともに、就職のために運転免許証が必要になってくるので、社会経験を積みながら出来るだけ自分の力で資金をため、自立できるように支援している。また、隣りにある同法人の特別養護老人ホームでも就業体験が出来る。

(12) 親子関係の再構築支援

① A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b	A40
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

家庭支援専門相談員を中心に児童相談所と連携をし、面会や外出、一時帰宅の機会を調整したり、必要に応じて家庭訪問を実施したりと親子関係の修復に取り組んでいる。外泊できない子を対象に、里親を探したり、日曜の家という名称で一日里親をお願いして家庭の雰囲気を感じたり、親子関係の再構築のために努力している。児童相談所とは常に連絡を取り合いながら家族支援に取り組んでいる。

(13) スーパービジョン体制

① A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b	A41
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定期的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

基幹的職員を配置し職員がいつでも相談できるようにしている。グループ会議で子どもの養育・支援について職員が意見を出し合い、職員が一人で問題を抱え込まないようにしている。若い職員が多いので、担当職員の意向も汲取ったうえで助言や指導を行なっている。